

麻布と落語(おかめ団子)



平成 26年(2014年)

「おかめ団子」跡。間口3間(約5m45cm)、奥行11間(約20m)の総2階という店は、いつも客であふれていたと、当時の繁盛ぶりが伝えられている。

平成 26年(2014年)

団子屋こそないが、跡地周辺には10年、20年と“商い”をしている飲食店が少なくない。



地図中、赤い点線は、左の写真のおおよその範囲を示したもの。

おかめ団子(あらすじ)

飯倉片町の「おかめ団子」は、一人娘のおかめが美人の上、愛嬌があるとあって、たいそう繁盛していた。

ある風の強い日、そのおかめ団子が早めの店じまいをしていたところ、貧乏な身なりの男が一盆の団子を求めて店にやってきた。番頭は追い払おうとするが、客と知った店の主は招き入れ、その貧乏な身なりの大根屋、太助に団子を振る舞い、さらに太助が毎日母親のために買っていると聞き、礼として一包み包んだ。

家に帰った太助は、母親に団子を食べさせながら、固い布団のせいで体を痛がっている母にどうか柔らかい布団を買いたいと思った。先だっておかめ団子で団子を食べながら見たたいそうな額の売り溜めを思い出し、母がいなくなってからは親孝行はできないと、その夜おかめ団子に忍び込むべく寒風吹く中出かけた。

途中、犬に追われたりしながらも、おかめ団子の庭先に入り、「さてどうしようか」と思ったちょうどその時、雨戸がすっと開き、おかめが庭先へ出てきた。そして、縁側から踏み台を出し、木の枝に帯を掛け首をくくろうとしたのを見て、太助は夢中で助けた。

無理に勧められた縁談をおかめはいやがっていたのだった。その騒ぎに気づいた主は助けに入っていた太助に顛末を聞いていたが、ふとなぜ太助がここにいるのか不信に思い事情を聞いたところ、太助は母に布団を買いたいがために盗みに入ったと正直に話した。主はその親孝行ぶりと正直さに感心しお金を渡して帰した。

その後、おかめは太助と一緒にいたいと言いだし、太助は団子屋の養子となり、おかめ、母親ともども幸せに暮らし、店は繁盛したという。

昭和 39年(1964年)

：六本木五丁目付近(写真左端が飯倉片町)

古典落語には、麻布界隈が舞台として登場する噺がいくつかある。江戸時代から明治時代まで飯倉片町に実在した団子屋が舞台の「おかめ団子」。「井戸の茶碗」に登場する正直者のくず屋の清兵衛は、麻布谷町の住人として描かれている。これら二つの人情噺を通して、江戸からつづく麻布の歴史と今を訪ね歩いてみた。

麻布と落語(井戸の茶碗)



平成 23年(2011年)

泉ガーデン上層階から、くず屋の清兵衛が住んでいたとされる旧麻布谷町の方を望む。住居表示はなくなったが、首都高速3号渋谷線と都心環状線の合流地点、「谷町ジャンクション」(写真中央)の名に残されている。



昭和 52年(1977年)

旧麻布谷町の商店街。道路の左側が六本木1丁目1番、右が1丁目3番、上方の建物はスペイン大使館と思われる。



昭和 48年(1973年)

旧麻布筆筈町北寄りの高台から旧麻布谷町を望む。上方に当時の霊南坂教会が見える。

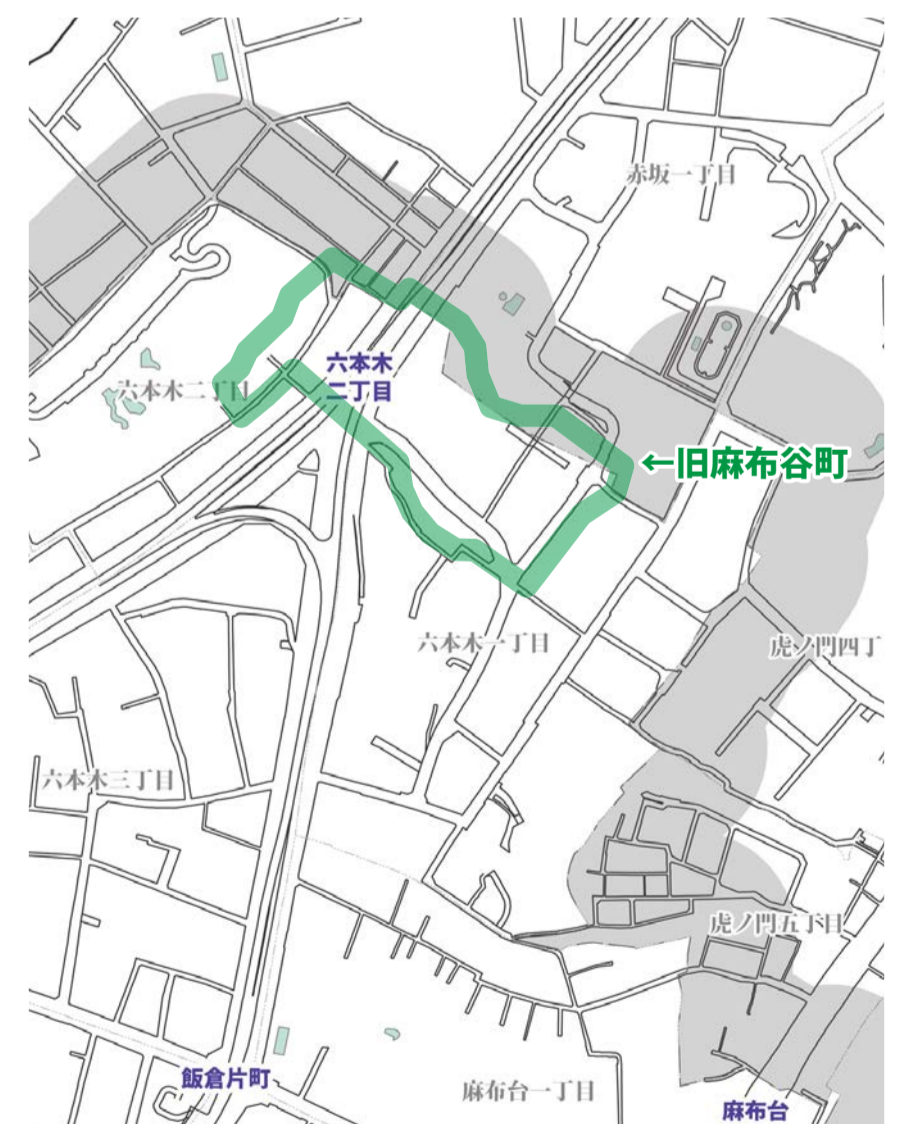
井戸の茶碗(あらすじ)

麻布谷町に住む正直者のくず屋の清兵衛が白金の清正公(覚林寺)の前を歩いていると、身形は粗末だが、どこか品のある若い娘に呼び止められた。娘について裏長屋に入ると、父親の浪人・千代田ト斎から仏像を二百文で買ってくれないかと頼まれる。もし売れたら儲けは折半ということで仏像を引き取った清兵衛。仏像を籠に入れ、三田の細川侯のお屋敷の窓下を通ると、窓から若い武士に呼び止められ、武士は仏像を三百文で買った。

煤けた仏像を武士がぬるま湯に漬けて磨いていると、台座の下に貼られた紙がはがれて小判五十両が出てきた。驚いた武士は売り主に返そうと思ひ、仏像を買ったくず屋探しを始める。清兵衛を見つけた武士は、「細川家の高木佐久左衛門」と名乗り、「仏像は買ったが小判を買ったおぼえはない」と、清兵衛に五十両を託しト斎のもとに届けさせた。

ところが、「売った仏像から何が出ようと、それはもう自分のものではない」とト斎も譲らない。見かねた長屋の大家が、高木とト斎とで二十両、残りの十両を清兵衛にとの妙案を示すが、ト斎は納得しない。「お金を受け取るかわり、先方になにか品物を差し上げてはどうか」との大家のすすめに、ト斎はいつも使っている父の形見の茶碗を高木に渡し、ようやく二十両を受け取った。

この美談が家中で評判になり、細川家の殿様が茶碗を見たいという。目利きの鑑定で「井戸の茶碗」という名器であることがわかり、殿様が三百両で買い上げた。おかげで清兵衛はまたもやト斎と高木の間を行ったり来たり。「娘を嫁に差し上げ、結納がわりなら金を受け取る」という条件でようやくト斎は折り合う。清兵衛がその条件を伝えると、高木も娘との結婚を承諾。「よい娘です。磨けば美人になりますよ」「もう磨くのはよそう。また小判が出てくるといけない」。



旧麻布谷町は、現在の六本木1・2丁目と赤坂2丁目の一部にあたる。町名が廃止されたのは昭和42年(1967年)。昔ながらの家屋が建ち並ぶ町は首都高速で分断され、大型複合施設や高層ビルの建設が相次ぐなどして、様相は一変した。

南麻布と落語(黄金餅)



昭和 50年(1975年) :
絶江坂 坂下から坂上を望む

承応 2年(1654年)、坂の東側に曹溪寺(そうけいじ)が赤坂から移転。初代和尚・絶江が名僧で付近の地名となり、坂名に変わった。



平成 26年(2014年) :
絶江坂 坂下から坂上を望む



平成27年(2015年):「おかめ団子」跡
白いビルの脇の道(写真右端)が永坂に通じている。



平成27年(2015年):永坂
長く、なだらかな坂道を下っていくと十番に出る。



平成27年(2015年):大黒坂
坂の中腹北側に大黒天をまつる大法寺があったため、こう呼ばれた。大法寺の開山は慶長2年(1597年)。今も一本松の「大黒さま」として親しまれている



平成27年(2015年):一本松
大黒坂を上っていくと姿を現す。平安時代中期の武将・源経基(みなものつねもと)などの伝説をもち、古来、植えつがれてきた。



参考文献:『古地図と名所図会で味わう江戸の落語』(菅野俊輔著・青春出版社)、『志ん朝の落語5 浮きつ沈みつ』(古今亭志ん朝著・筑摩書房)
このパネルに掲載されている古い写真について/写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏

「黄金餅(こがねもち)」 あらすじ

下谷の山崎町 *1に西念という坊さんがいた。貧乏長屋に住み、一所懸命お金をためていたが、風邪がもとで悪い寝ついてしまう。そこへ隣に住んでいた金山寺屋 *2の金兵衛が心配して見舞いにやってくる。

何か食べたいものはないかとたずねる金兵衛に、あんころ餅を山ほど買ってもらった西念。「他人が見ていると食べられないたち」だといって金兵衛を家に帰す。気になるので、金兵衛が壁の穴から隣を覗いてみると、西念はなにやら考え込んだ様子。じきに懐から汚い胴巻きを出し、一分銀と二分金を山のように取り出すと、餅の中に詰め込み、次から次へと呑み込んでしまった。と、餅をのどに詰まらせて苦しうにしはじめたので、飛んでいって背中を叩いたりして介抱するが、西念はあつけなく死んでしまう。

腹の中の金を一人占めにしようと目論む金兵衛。亡骸を菜漬用の樽に納め、大家に事の顛末を話すと、息のあるうちに「死んでも行き所がないから、金兵衛さんの寺に葬ってくれ」と頼まれたと付け加える。こうして長屋仲間と葬列を組み、金兵衛の寺・麻布絶江釜無村の木蓮寺(架空)まで向かうことになった。

一行は山崎町から上野の山下を経て上野広小路に出ると、御成街道を進み、神田川にかかる筋違御門を通って神田から日本橋に向かい、さらに京橋をまっすぐ進み、新橋の手前で右に折れ、新し橋(あたらしばし)のところまで左に曲がって愛宕下に出て、神谷町を通って飯倉で坂を上り、飯倉片町の「おかめ団子」*3の前を通って永坂を下り、十番へ出て大黒坂を上り、一本松を経て麻布絶江釜無村の木蓮寺に到着。

木蓮寺で読経が終り、焼き場の切手(火葬願いの書類)を受け取ると、ここから先は金兵衛一人、亡骸の入った樽を背負い、夜道を焼き場のある桐ヶ谷 *4へと向かう。

焼き場の男に、「腹のあたりは生焼けにしといてくれ」と妙な注文をつけるが、そうはゆかず。手伝いを申し出た男を追い払うと、「カリカリに焼いちまいやがって」などとぶつぶつ言いながら、隠し持っていた錆びた鯨切り包丁を取り出し、亡骸を調べはじめる。ようやくキラッと光るものを探し出した金兵衛。無我夢中でそれらをかき集め、急いで袂に入れて立ち去ろうとする。

男に焼き賃を置いていこうと催促されると、「やなこった、泥棒!」、骨はどうするんだと問われると、「犬にでもやっっちゃえ」と乱暴な答え。

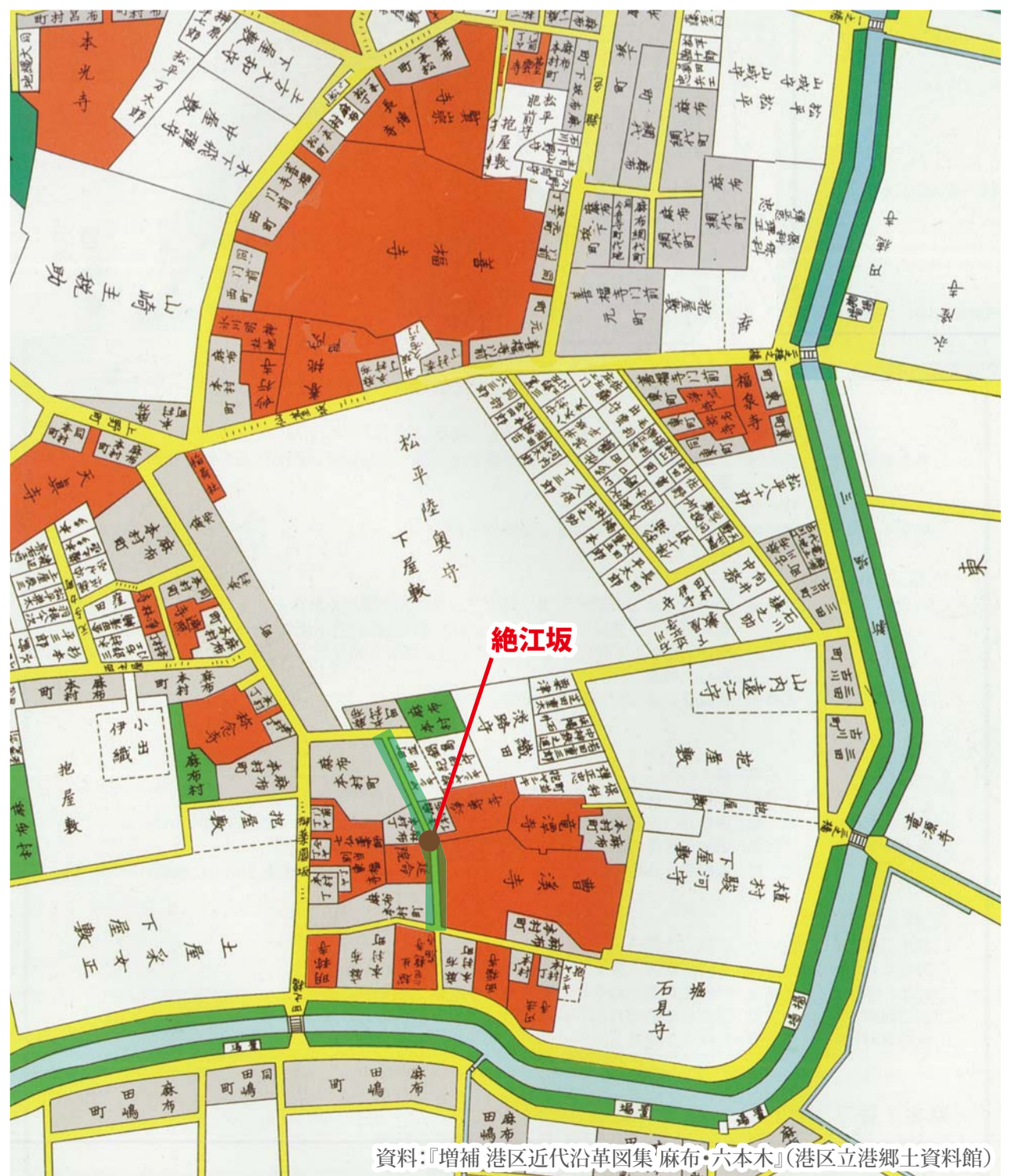
ともかく目的を果たした金兵衛。目黒に餅屋を出して、たいそう繁昌したという。江戸の名物、黄金餅の由来の一席。

*1 山崎町: 東京都台東区東上野と北上野

*2 金山寺屋: 味噌売り

*3 おかめ団子: 江戸時代から明治時代まで飯倉片町に実在した団子屋。

*4 桐ヶ谷: 品川区西五反田(今も斎場がある)。



資料:『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』(港区立港郷土資料館)

南麻布と落語(小言幸兵衛)



平成 27年(2015年)：桜田通りの歩道橋より。麻布古川町へと入る斜めの小道を望む。奥には六本木ヒルズ。



平成 27年(2015年)：小道近景。手前の三角地帯には象印マホービン東京ビル、その辺りが麻布古川町。左手には港区立東町小学校がある。



平成 27年(2015年)：道路右側手前が麻布古川町と考えられるエリア。

「小言幸兵衛」の舞台となった麻布古川町は、現在の南麻布一丁目のごく小さな地帯、現在の象印マホービン東京ビルのある裏通り側の一角である。表通りの交通量は多いが、一旦小道に入れば静かな町並みである。



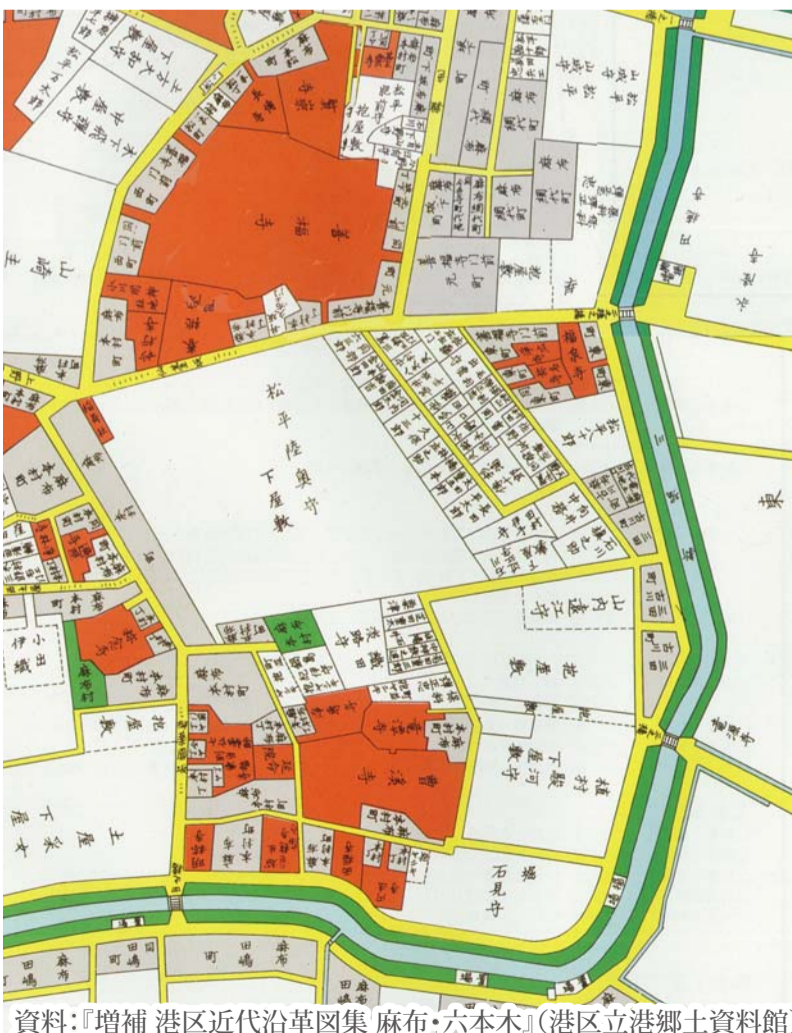
平成27年(2015年)：麻布古川町沿いの道路反対側、山内遠江守屋敷跡。現在は港区立東町小学校となっている。



平成27年(2015年)：ゆうあい南麻布(平成27年3月末まで改修中)



平成27年(2015年)：現在南麻布一丁目にて営業している温泉銭湯「竹の湯」。幸兵衛さんの時代には、武士の小さな家々が建っていた一角であったと考えられる。



資料：『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』(港区立港郷土資料館)



「小言幸兵衛(こごとやこうべえ) あらすじ」

人間、癖の無い者はおらず、なくて七癖、あつて四十八癖と言います。麻布の古川に家主をしている幸兵衛さんという方がいましたが、この人は朝起きてから長屋を一回りして小言を言わないと飯がまずいという程小言を言うのが癖なので、小言幸兵衛と呼ばれるくらい。

ある日、家を借りたいと店賃を聞く人が幸兵衛さんの家に来た。幸兵衛さんに店賃を聞くも、口の利き方を知らない逆にと小言を言われる。幸兵衛さんは次いで商売を聞くと、豆腐屋。近所に豆腐屋が無いので一旦乗りするものの、家族構成を聞いて豆腐屋が「かかあがひとり」と言えば、「これまでに三人も四人もいるのか。でなければ、ことさらひとりごととわらふ必要は無い。無駄口をきくやつに利口なやつはいない。」とまた小言。さらに一緒になって8年になって子供が居ないと、「離縁して独り身で来い。子のできるかみさんを世話するから。」と幸兵衛さん。これには、豆腐屋はいかにかみさんと「好いて好かれて、好かれて好いて」の仲かを力説して出て行ってしまふ。

次いで現れた客人。豆腐屋と打って変わって丁寧な口の利き方で、家を借りられるかどうか幸兵衛さんに尋ねる。

幸兵衛さんは客人の物の問い方や返事の仕方の無駄の無さから、学のありそうな様子に感心し、座布団やお茶、羊羹などを出すように婆さまに言う。幸兵衛さんは再び訪問者に商売を尋ねると「仕立て職を営んでおります。」との返答。「仕立屋さんだからいとなむ、ときたな」と、シャレを効かせてうまいと絶賛する幸兵衛さん。次いで、徐々に家族構成など尋ねる幸兵衛さんだが、仕立屋に20歳の跡継ぎ息子が独り身で居るとわかると「この長屋に心中が起るから貸すわけにはいかない。どんな遺恨があつて、この長屋へこんな騒動を持ち込むのか。」と言い始める。

理由のわからない仕立屋に幸兵衛さんは続ける。「このすじむかひに古着屋のお花という19の娘がいる。始めのうちは遠慮があるが、毎日顔を合わせている間に心の中で思い思われる仲になってくるだろう。そのうちにお花のお腹がポンポコランとせり出してくる。おまえさんの俵の胤を宿したんだ。そして、とうとう両親に知れてしまう。ところが、両親は怒らない。『仕立屋の息子なら申し分無い』ということだ。お前さんも思い切つて俵をやるんだな。」「いえ、まだ引越しておりませんので。」「人の娘をきずものにしてどうするんだい?婿にやれ、すぐに。」「それは困ります。一人息子でございますから。」「向こうだつて一人娘だよ。ああ、双方の親が強情を張つてたんじゃ、このせじゃ添えないから、ここで心中にならあ。心中となれば、幕が開く。」

と、幸兵衛さんの話の中では、幕が開き、芝居が始まる。そこで、仕立屋の俵の名を尋ねるが名前が間抜けだと小言を言い、宗旨が法華とわかれば心中するには陽気だと小言を言い、お花の家の宗旨が真言だとわかれば心中の雰囲気をぶち壊したと小言を言い、最後には「貸すわけにはいかねえから帰ってくれ!」と幸兵衛さん。仕立屋は驚いて出て行ってしまった。

麻布とアニメ(1)



平成25年(2013年):氷川神社

『美少女戦士セーラームーン』

「愛と正義の、セーラー服美少女戦士、セーラームーン!」「月に代わって、お仕置きよ!」というセリフで知られている。作者の武内直子氏の出身大学や勤務先が港区だったため、東京タワーやその周辺らしきものが頻繁に登場する理由とも言われている。

作中の「火川神社」は、仙台坂上に現存する「氷川神社」がモデルと言われている。また、「一の橋公園」は同名の公園がモデルとされている。

※一の橋公園は、平成22年2月中旬～平成28年3月31日(予定)まで東京都の古川地下調節池工事のため、利用ができません。

【公式サイト】http://sailormoon.channel.or.jp/index_pc.html



平成25年(2014年):麻布十番商店街
ゲームセンターの元になったとも言われるパチンコ店があったあたり



平成26年(2014年):麻布十番商店街
主人公達も、このあたりで過ごしていたのではないのでしょうか?



通学路(鳥居坂付近)

※平成25年(2013年)撮影(右写真2点とも)



古いレンガの壁(鳥居坂付近)



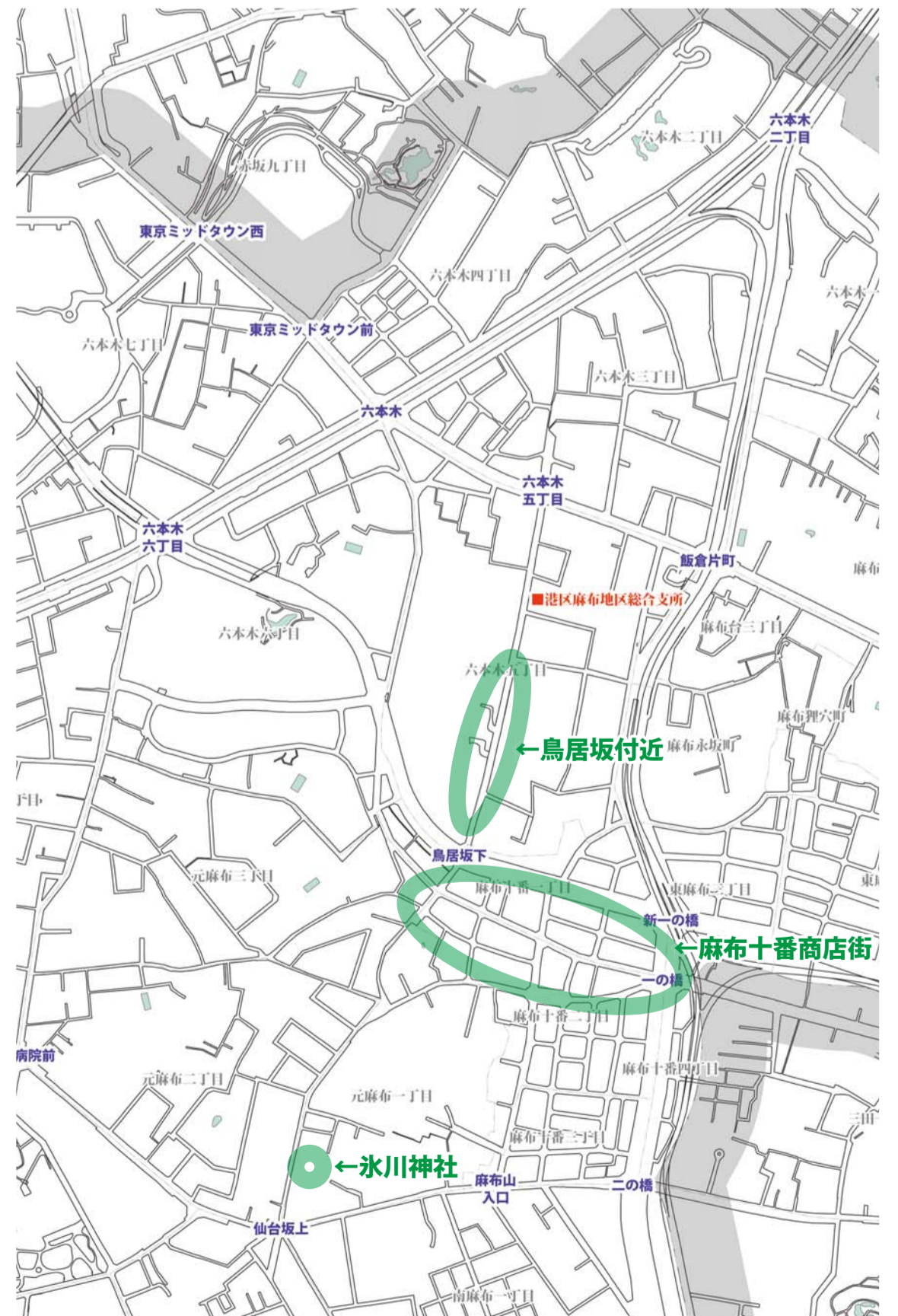
鳥居坂にある東洋英和女学院の建物

『大正野球娘』

大正時代の架空の女子高で野球をする少女達の物語。主人公が通学していた道として鳥居坂が登場する。

また、実家は、麻布十番の洋食屋、看板娘として登校前と帰宅後などに調理と給仕の手伝いをしている設定が知られている。

【公式サイト】<http://www.tbs.co.jp/anime/taisho/>



麻布とアニメ(2)



平成25年(2013年):暗闇坂

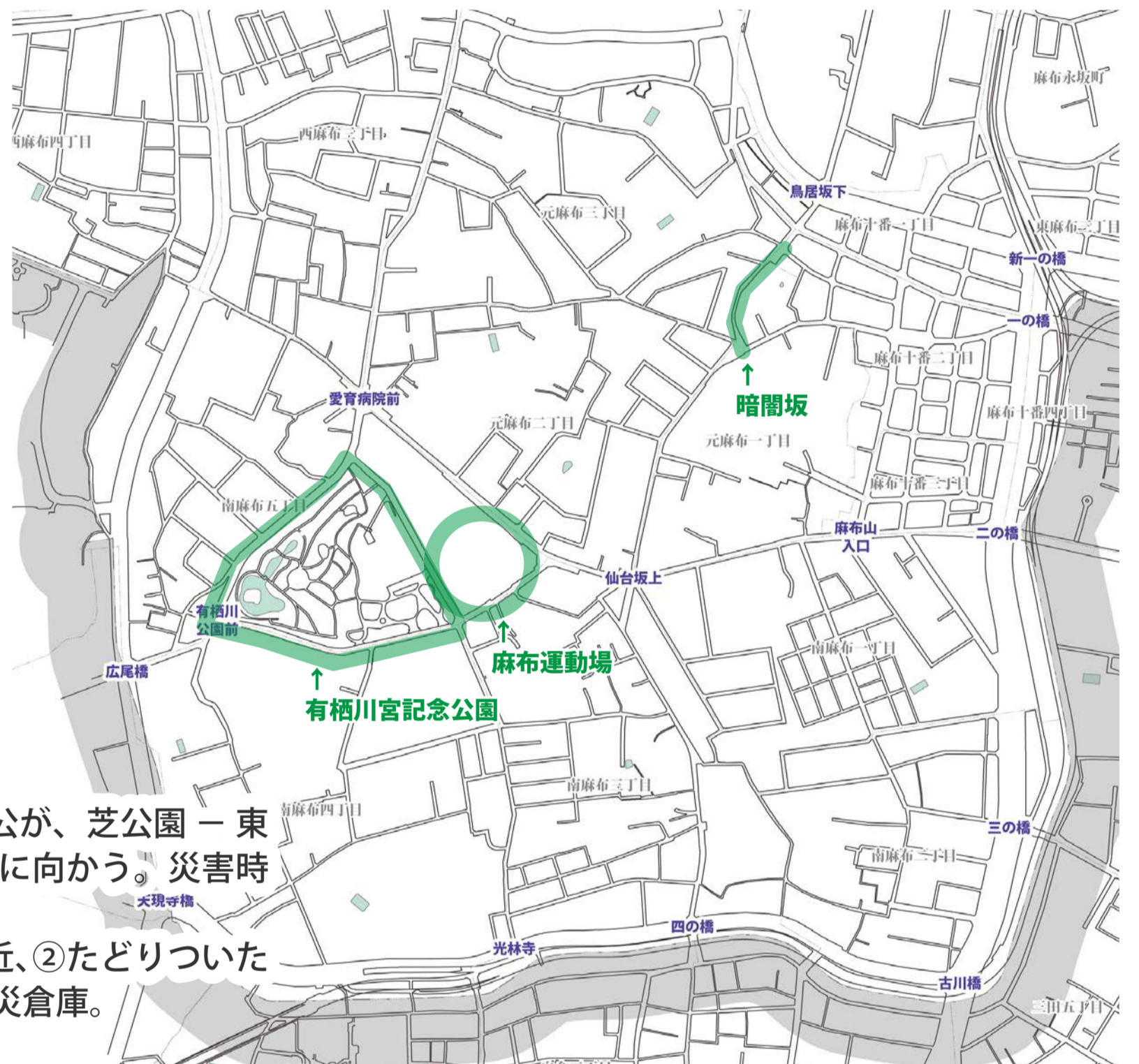
『東京マグニチュード8.0』
 防災に関係したアニメ作品。台場で大地震にあった主人公が、芝公園ー東京タワーの近くを通って麻布付近から有栖川宮記念公園に向かう。災害時のリアルな描写が印象的な作品。
 主人公が歩いたと思われるルートから、①暗闇坂坂上付近、②たどりついた有栖川宮記念公園、③途中にある、麻布運動場脇の港区防災倉庫。
 【公式サイト】<http://tokyo-m8.com/>



平成25年(2013年)



平成25年(2013年)



平成25年(2013年):麻布十番駅とその周辺



平成25年(2013年):六本木駅



平成25年(2013年):赤羽橋駅



『ミラクル☆トレイン〜大江戸線へようこそ〜』
 大江戸線の駅が美男子キャラに擬人化されて、ストーリーが展開するアニメ作品。麻布地区からは、六本木駅、麻布十番駅、赤羽橋がキャラクターとなり何度も登場する。
 キャラクターの名前は、駅の番号から付けられている。
 23番 六本木 史(ろっぽんぎふみ)こと六本木駅
 22番 麻布十番 双葉(あざぶじゅうばんふたば)こと麻布十番駅
 21番 赤羽橋 式人(あかばねばしにひと)こと赤羽橋駅
 2009年10月〜同年12月までテレビ放送されていた。
 【公式サイト】<http://www.miracle-train.tv/>